

佐倉市1歳6か月児及び3歳児健康診査の実施状況について

【結果の概要】

- 1歳6か月児健康診査・3歳児健康診査ともに受診率は96%以上と高水準である。
- 個別医師診察の受診率は、両健診ともに約8割で推移している。
- 発達面や養育に関する支援ニーズが、年齢が上がるにつれて増加する傾向がみられる。

1. 受診状況について（集団健診・個別医師診察）

① 1歳6か月児健康診査

	集団健診			個別医師診察		
	対象者数	受診者数	受診率(%)	対象者数	受診者数	受診率(%)
令和5年度	832	808	97.1	808	692	85.6
令和6年度	812	797	98.2	797	683	85.7

② 3歳児健康診査

	集団健診			個別医師診察		
	対象者数	受診者数	受診率(%)	対象者数	受診者数	受診率(%)
令和5年度	947	922	97.4	922	747	81.0
令和6年度	923	892	96.6	892	732	82.1

2. 医師診察結果・精密健康診査結果

- 医師診察受診者のうち、要精密健康診査と判定されたのは1.6%程度。
- 要経過観察は、期間をおいて再受診するよう指導されている。

① 1歳6か月児健康診査

ア. 医師診察判定結果

	受診者数	判定				
		異常なし	既医療	要経過観察	要紹介 (要精密)	要紹介 (要治療)
令和5年度	692	652	5	24	6	5
令和6年度	683	626	6	33	11	7

イ. 要紹介（要精密）の精密健康診査結果

	受診者数	判定			
		異常なし	要経過 観察	要医療	詳細
令和5年度	6	1	2	3	不触知精巣1、両側移動精巣1、臍ヘルニア1
令和6年度	10	0	8	2	外科視1、両側移動精巣1

② 3歳児健康診査

ア. 医師診察判定結果

	受診者数	判定				
		異常なし	既医療	要経過観察	要紹介 (要精密)	要紹介 (要治療)
令和5年度	747	685	17	29	9	7
令和6年度	732	681	8	27	12	4

イ. 要紹介（要精密）の精密健康診査結果

	受診者数	判定			
		異常なし	要経過観察	要医療	詳細
令和5年度	9	1	6	2	両側内反足1、精神発達遅滞1
令和6年度	10	1	6	3	臍ヘルニア2、陰嚢水腫1

3. 尿検査の結果（3歳児健康診査のみ）

- 一次検査の有所見率は前年度より減少しており、大きな変動はみられない。
- 受診日の早朝尿を検査。尿が採れない、おむつ等の理由で実施率は概ね9割程度。

ア. 一次検査

	検査数	実施率	有所見数	有所見率 (%)	所見結果		
					糖	蛋白	潜血
令和5年度	787	85.4	40	5.1	0	23	17
令和6年度	820	91.9	30	3.4	0	13	17

イ. 二次検査及び精密健康診査

	二次検査		精密健康診査			
	対象者数	有所見数	受診者数	結果		
				異常なし	要経過観察	結果の詳細
令和5年度	40	14	12	4	8	無症候性血尿5、白血球尿1、尿蛋白1、その他1
令和6年度	30	14	13	7	6	無症候性血尿5、蛋白尿1

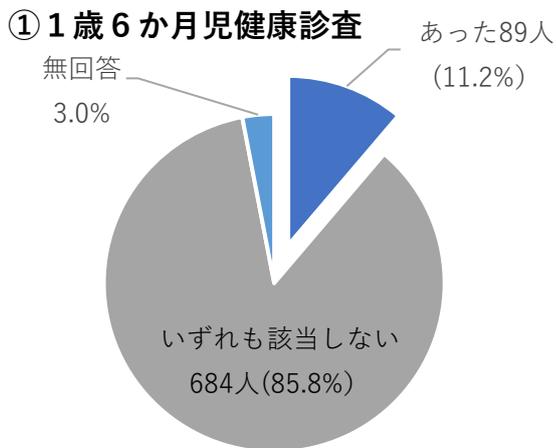
4. 育児相談の状況

- 子どもの年齢が上がるにつれて、不適切な関わりが増加する傾向がみられる。
- 養育負担の増大や、発達段階に応じた関わりの難しさが背景要因として考えられる。

(1) 体罰や暴言、ネグレクト等によらない子育てをしている親の割合

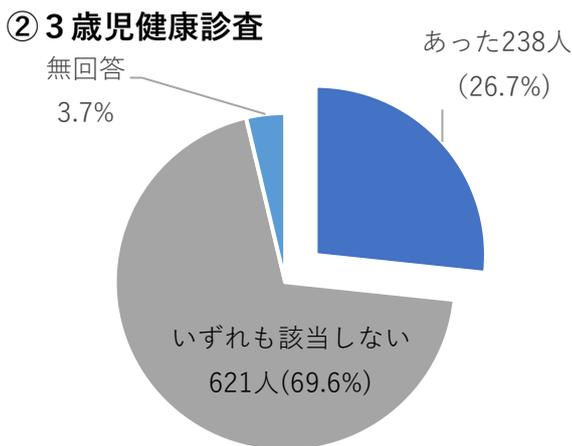
問診項目 「この数か月の間に、ご家庭で以下のことがありましたか（複数回答可）」

しつけのし過ぎがあった ・ 感情的に叩いた ・ 乳幼児だけを家に残して外出した
長時間食事を与えなかった ・ 感情的な言葉で怒鳴った ・ こどもの口をふさいだ
こどもを激しく揺さぶった



※「あった」と回答した者における内訳（複数回答）

	回答数
しつけのし過ぎがあった	7
感情的に叩いた	24
乳幼児だけを家に残して外出した	2
長時間食事を与えなかった	0
感情的な言葉で怒鳴った	69
こどもの口をふさいだ	4
こどもを激しく揺さぶった	1



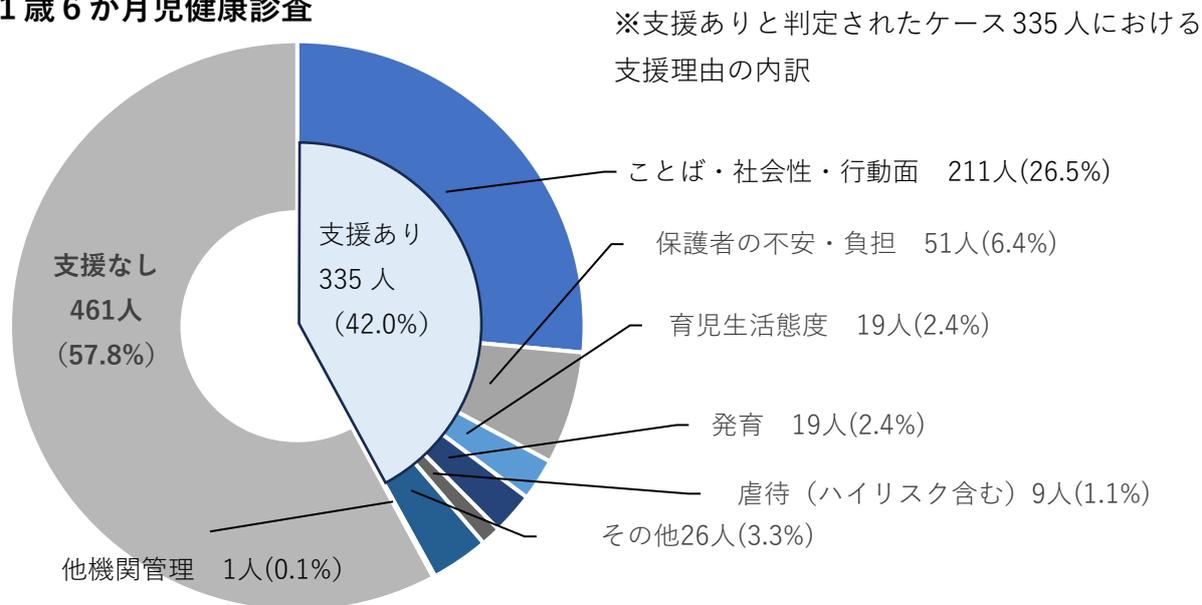
※「あった」と回答した者における内訳（複数回答）

	回答数
しつけのし過ぎがあった	22
感情的に叩いた	27
乳幼児だけを家に残して外出した	4
長時間食事を与えなかった	0
感情的な言葉で怒鳴った	223

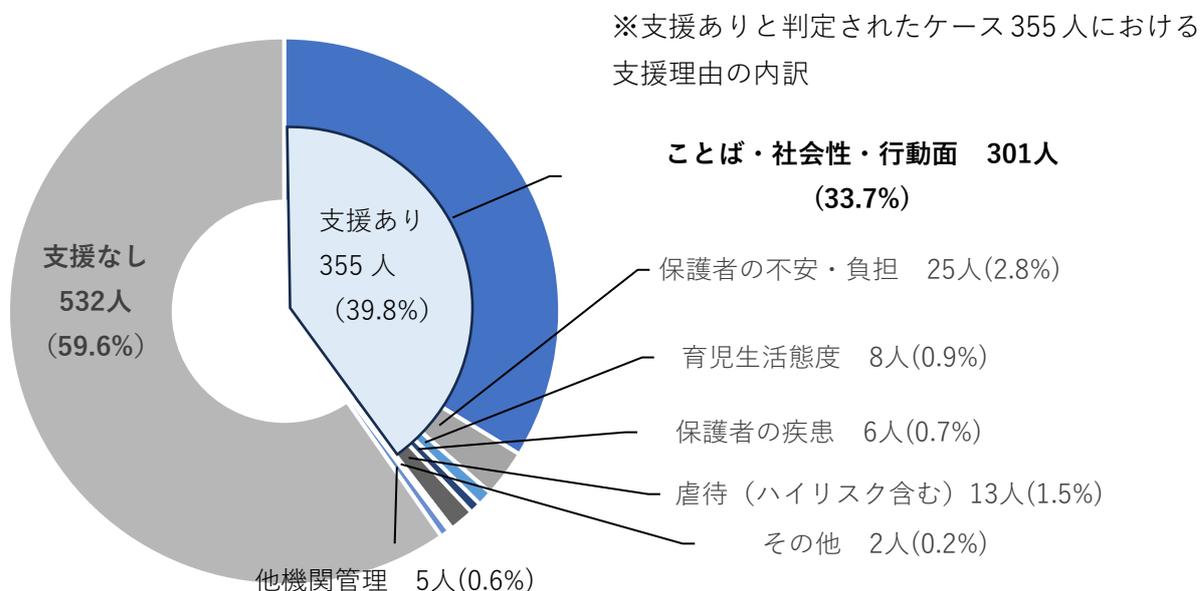
(2) 保健師相談判定

- 両健康診査ともに、「ことば・社会性・行動面」の発達に課題が主な支援理由となっている。
- 1歳6か月児健康診査で要支援と判定された場合には、親子教室や2歳幼児歯科健康診査でその後の状況を確認。
- 3歳児健康診査では、就園を控え、発達・行動面の相談が増加。発達相談等を勧めるが、こどもの成長を見守りたいと考える保護者も多い。

① 1歳6か月児健康診査



② 3歳児健康診査



【今後に向けて】

1歳6か月児健診では早期の気づき、3歳児健診では就園を見据えた支援を行ってきた。支援ありと判定されたケースは全体の約4割であり、その内訳としては「ことば・社会性・行動面」に関する支援が最も多かった。一方で、就園後に課題が顕在化するケースもあることから、5歳という節目で発達や生活状況を確認し、切れ目のない支援につなげることが重要である。